

月の異名（古名）

● 十二か月の和名は、『万葉集』や『日本書紀』等にも見られる古くからの呼び名ですが、語源については諸説まちまちです。

睦月	一月	正月には人々が親しみ睦み合って過ごすことから。（有力説）
如月	二月	諸説あり。寒いために更に衣（衣服）を着る（衣更着）ことから。また、陽気が発達する時季が更に来ることから。
弥生	三月	草木がいよいよ生い茂る月。（定説）
卯月	四月	卯の花が咲く月。（有力説）
皐月	五月	諸説あり。佐（田植え）をする月。また、早苗月から。
水無月	六月	諸説あり。梅雨も終わって水も枯れる月。また、どの田も水をたたえている（水月）ことから。
文月	七月	諸説あり。文（書物）の虫干しをする日である七夕（七月七日）のある月。
葉月	八月	諸説あり。木の葉が黄色く染まる月。
長月	九月	夜がようやくやく長くなる夜長月の略か。
神無月	十月	諸説あり。諸国の神々が出雲国に集まり、出雲以外の国々には神が不在となることから。出雲国のみ神有月。
霜月	十一月	霜がしきりにふる「しもふり月」から。（定説）
師走	十二月	「し（歳）が果つ（年が終わりに達する）」ことから。（定説） また、十二月には僧を迎えて仏事が行われるので、僧が東西に忙しく駆け回る月。（一般説）